

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

# にしあいづ物語100選 その46

文：長谷川 隆夫

## 安座集落・八蛇沼の大蛇伝説

野沢駅より南西に約5km、新潟県境の四方奇岩に囲まれた平坦地に安座集落があります。昔は「八蛇沼」という周囲10kmもあるかと思われる沼でした。この沼には100<sup>ひろ</sup>尋（約180m）もある大蛇が住んでいました。また、この沼と大沼郡金山町の沼沢沼（湖）とがつながっていたという言い伝えがあります。

八蛇沼には雌の大蛇が、沼沢沼には雄の大蛇がそれぞれ住んでいて、2匹の大蛇は美しい恋で結ばれており、お互いに沼と沼に通じる水路を<sup>おう</sup>通っては逢瀬を楽しんでいました。沼沢沼の大蛇は、時折織り上がった美しい織物を八蛇沼に向けて水路から流し送ったといわれ、その織物が水面に浮かび上がってくるのを近くの村人がたびたび見かけることがあったそうです。

そうした美しい沼に天変地異が起きました。天をも揺るがす地鳴りとともに、山の一角が崩れ落ち、満々と湛えていた八蛇沼の水が瞬<sup>またた</sup>く間に引いていきました。沼沢沼から流れてくる水路の水もわずかに沼の底を流れるに過ぎず、やがてすっかり沼の水が引いたとき、地震で崩れ落ちた岩石にぶつかった大蛇はのたうちながら沼の底で苦しんでいました。やがてからからに干上がってしまい、大蛇はついに死んでしまいました。一説には、この大蛇は水の引いた沼から尾多返山（龍ヶ岳）に巻き付きながら死んだともいわれています。

大蛇が死んでまもなく沼岡村（現在の安座集落）の人達は、次々と原因不明の疫病に苦しみ倒れ、死ぬ者も多かったそうです。ちょうどその頃、弘法大師が諸国行脚の旅をしており、如法寺に足を止めていました。大師はこの話を伝え聞いて急いで沼岡村に來られ、3日間洞くつにこもり、護摩を焚いて、大蛇の骨を拾い集めて塚を築き、これを収めました。それからは大蛇のたたりは止み、村人は疫病から逃れることができたと言われています。

（原文 故 長谷川謙吉氏）



現在の安座集落



### 今月の表紙

今月はこゆりこども園で行われた「だんごさし」より。自分たちで丸めた団子がゆであがると、夢中で「ミズキ」の木に団子を飾っていました。その様子をカメラに収めようとしたら、ある園児が「手がべたべたする」と手につけてきて、私の手もべたべたになってしまいました（笑）。

（4ページに関連記事）

### 編集後記

12月5日に開催された子どもの主張大会、私も中学生の時に参加したことがありました。その頃は大会名が少年の主張大会で、当日は緊張していたためか、トイレに何度も行ったことを覚えています。

多くの聴衆の皆さんを前にしても、堂々とした子どもたちの発表を聞いて、さまざまに思いや夢を感じ、改めて自分も頑張ろうと気持ちを新たにしました。（秦）